

世界食糧計画(WFP)とのオマヘケ州への共同出張(令和8年7月3日)

令和8年7月3日、山田岳広書記官は、ナミビア教育・革新・青年・スポーツ・芸術・文化省と世界食糧計画(WFP)が共同で実施している「地元産食材を活用した学校給食プログラム」を視察するために、WFP一行に同行しオマヘケ州レオナルドビルに出張しました。

今回日本大使館がWFPの出張に同行したのは、日本の認定NP0法人国連WFP協会(JAWFP)が日本の個人や民間企業からの寄付・募金で集めた総額166,234米ドル(25,117,685円)が、「地元産食材を活用した学校給食プログラム(HGSFP)」をサポートする資金として活用されているため、視察したレオナルドビル村のナオサナビス小学校を含むナミビア国内29校の約13000人の子供たちが裨益しています。

ナオサナビス小学校への現地視察を通じて、WFPと日本大使館は、HGSFPの実施成果を現場で確認しました。また、学校や地域社会の関係者らと直接対話を行うとともに、学校給食や学校菜園などの補完的取り組みが、児童の福祉、出席率、そして地域社会のレジリエンスにどのように寄与しているかを評価する機会を得ました。



集合写真(WFP、日本大使館、オマヘケ州教育局、ナオサナビス小学校職員・保護者代表)



訪問した日の学校給食



学校給食を楽しむナオサナビス小学校の児童たち



(左より) 山田書記官、カムウィ WFP 職員、アシパラ校長先生